

研究対象者等に通知し、又は公開すべき事項（情報公開用）

申請番号： 20-050

試料・情報の利用目的及び利用方法（他の機関へ提供される場合はその方法を含む。）

- ・研究課題名： FDG-PET/CTによる進行癌患者の心筋ブドウ糖代謝変化についての検討
- ・目的： 進行癌では経過中に悪液質を伴い、進行性の体重減少により特徴付けられる、るいそう、食欲不振、筋肉の萎縮、筋力の低下、倦怠感、低アルブミン血症、貧血、脂質異常症などを特徴とする症候群が進行する。腫瘍での糖利用の亢進と末梢組織におけるタンパク質の崩壊により生成されるアミノ酸や脂肪の崩壊により生成されるグリセロールからの肝臓での糖新生の亢進が生体を疲弊させるとされている。悪液質の原因としてサイトカインやペプチドが最有力視されている。インスリン抵抗性が特徴とされる。進行癌患者では、糖代謝異常により各臓器のFDGの正常生理的集積に変化が起こることが想定される。肝集積が進行癌患者の予後を示すと報告されている。我々は進行癌患者で心筋FDG集積が低下していることに注目している。最近では進行癌でも有効な治療が奏効を示す場合が多く、FDG-PET/CTによる進行癌の腫瘍量評価や治療効果評価も重要となってきた。そこで、進行癌患者においてFDG-PET検査による心筋FDG集積を経時的に定量評価し、心筋FDG集積の変化を後ろ向きに検討する。また、同時に治療前および治療が奏効した時期のFDG-PET検査および悪液質（体重減少 \geq 5%、BMI $<$ 20および体重減少 $>$ 2%、Sarcopeniaおよび体重減少 $>$ 2%）の有無と比較して、いわゆる悪液質状態や腫瘍量の多い状態における心筋FDG集積低下所見が関連している事実を示したい。

- ・研究期間： 臨床研究IRB承認日～ 2026年3月31日
- ・研究対象： 2007年5月1日～ 2024年1月4日

利用し、又は提供する試料・情報の項目

： 年齢、身長、体重、BMI（Body mass index）、病名、治療歴、病理結果、血算、血液生化学データ（CRP、Alb、LDH、Hgb）、PET/CT画像データ情報（検査時体重、血糖値、腫瘍および各臓器のSUVmax、腫瘍最大径、腫瘍代謝体積（metabolic volume; MTV）、腫瘍全代謝容積（total glucose volume; TGV）、腸骨上縁レベルの両側腸腰筋面積測定値およびPMI（Psoas muscle index）、皮下脂肪面積、内蔵脂肪面積）

利用する者の範囲

：

研究責任者

核医学科（教授） 久慈 一英

研究実施者

核医学科（教授） 久慈 一英

核医学科（講師） 瀬戸 陽

核医学科（大学病院兼担・教授） 松成 一郎

核医学科（大学院生） 渡邊 華帆

試料・情報の管理について責任を有する者の氏名又は名称

： 核医学科（教授） 久慈 一英